

京都さつきNEWS

Vol.36

京都さつき法律事務所報 第36号 2021(令和3)年1月1日発行

発行人 京都さつき法律事務所 〒604-0931 京都市中京区河原町二条西入る榎木町95番1 延寿堂第二ビル2階

TEL 075-257-3361 FAX 075-257-3371 E-mail : info@kyoto-satsuki.jp HP : https://kyotosatsuki.xtr.jp/

編集責任者 山下信子

2021 新年号

2021年がみなさまにとって良い年になりますように。
今年もよろしくお祈りします。



2021年正月 京都さつき法律事務所一同

※新年の執務は2021(令和3)年1月5日より開始いたします。

【中村葉子弁護士入所特別企画】

さつき座談会

本條：今回、中村葉子弁護士が新たに入所しましたので、特別企画ということで、中村弁護士にインタビューを行って、その人柄を皆さまに知っていただきたいと思えます。

まず、中村弁護士は、山下弁護士の大学の後輩で、司法試験受験仲間なんですね？

中村：そうなんです。山下先

生は先輩ですが、当時から、友人として親しく接してもらいました。

山下：私は、中村弁護士のおかげで司法試験に合格できたと言っても過言ではありません。

中村：いえいえ、それは言い過ぎです(笑)。あの頃は、まだ司法試験を志す女性が今ほど多くなかったので、受験勉強だ

けでなく、相互の家を行き来したり、一緒にご飯を作って食べたり、励まし合って努力してきました。

本條：長年検察官としてキャリアを築かれた女性というと、すごく厳しくて、キリッとした感じの方をイメージするのですが、中村弁護士はおっとりとしていて優しい・柔らかい雰囲気

の方だったので、最初にお会いしたとき驚いたのを覚えています。

山下：中村弁護士は昔から変わらず、ずっとこういう感じでしたね。私がチャキチャキときつく言ってしまうようなことも、優しくフォローしてくれると思います。

中村：期待に応えられるように頑張ります（笑）

本條：中村弁護士が検察官に任官したのはなぜだったのでしょうか？

中村：実は、最初は検察官志望ではなく、弁護士志望だったんです。

母が大学の社会福祉学部の教員をしてまして、小学生のころから、母と学生さん達の社会調査に付いていたりして、障害児・障害者の支援に関心を持ち、大学時代はボランティアなどもしていました。それで、社会貢献ができる弁護士になりたいと考えて司法試験を受験しました。しかし、司法試験合格後の検察修習で、性犯罪被害者が何ら支援のないまま告訴を取り下げた事案や、窃盗事件の孤独な加害少年に将来の夢を聴いたことな



山下信子弁護士

どから、検察官になろうと決めました。当時（平成3年）、刑事手続の過程には、支援が必要なのに、弁護士の支援が届いていない、検事だけが関わる領域がたくさんあると感じたからです。

山下：中村弁護士が、検察官の激務の中で、社会福祉士や精神保健福祉士の資格を取得したのはそういう背景があったんですね。

本條：検察官というと、激務に加えて、転勤も多いイメージですね。私は転勤を経験したことがないのですが、大変ではなかったですか？

中村：平成5年に検察官に任官してから、東京、大阪、名古屋、横浜、京都、札幌、福岡の検察庁にて執務しました。転勤



本條裕子弁護士

はとても楽しく、土地土地の自然や美味しい物にも出会えますし、何よりも、新しい土地には新しい人との出会いがあり、すべての勤務先が故郷のように感じています。二人三脚で仕事をする検察事務官とは兄弟のように親しくなりますし、大きな仕事を一緒に成し遂げた警察官とは同志です。また、弁護士、裁判官、関係機関の方々など、真剣に議論し切磋琢磨して信頼できる関係を築けたときは、とても充実した気持ちになりましたし、転勤後もずっと交流があります。

本條：検察官として携わった仕事の中で、思い出深い出来事や思い出のある仕事はなんでしょうか。

中村：忘れられない事件のひとつは、若い時に担当した児童虐待事案です。クラブの顧問の先生からの継続的な性的虐待事件の公判で、勇気を出して被害申告した少女たちが、法廷で加害者の弁護人から数時間にわたって激しい反対尋問をされて、意識消失することもあり、心が締め付けられるような思いでした。女性検事だったこともあって、その後も子どもや女性が被害に遭う事件を多く担当しました。その中で、民事・家事も含めてトータルに法的支援が





中村葉子弁護士

できる被害者代理人弁護士の必要性や、刑事裁判後も継続的に支援してくれるソーシャルワーカー、カウンセラーとの連携の必要性などを感じました。

また、裁判員裁判で死刑判決が出た強盗殺人等事件も主任で担当しましたが、遺族の思いを法廷に届けることの大切さを再認識しました。冷酷非道な殺害行為をした被告人が、遺族の意見陳述後に涙を流し、その後、私にも遺族への思いを綴った手紙をくれたからです。そのとき、「罪を憎んで人を憎まず」、「許せない犯罪はあっても、許せない人はいない」という気持ちで捜査公判に当たれと言った検察修習時代の先輩検事の言葉の思い出しました。

本條：その検察官を退官されて、弁護士登録された理由はなんでしょうか？

中村：検事になって20年目頃から公判部長や総務部長という管理職になり、捜査公判の最前線から遠ざかって、少し寂しくなりました。管理職は、被害者支援や高齢や障害のある加害者の社会復帰支援などの刑事政策分野では、多機関連携の企画立案など、やりがいのある仕事もできますし、社会福祉士や精神保健福祉士の通信教育を受ける時間的余裕もありましたが、

ご挨拶

弁護士 中村葉子

この度、京都さつき法律事務所に入所致しました中村葉子と申します。

私は、京都の下鴨神社近くの母方の祖父母宅で生まれ、祖母によく植物園や鴨川に連れていってもらいました。その後、遠方にいた父方祖父母を迎えて銀閣寺近くの家に引っ越し、小学校時代は大文字山を遊び場にしていました。両親の仕事の関係で中学の途中から高校まで枚方市にいましたが、大学時代、受験時代、大津修習時代と京都で暮らしてきました。

平成5年に検事任官した後、東京、大阪、名古屋、横浜、札幌、福岡の検察庁で、捜査・公判に携わり、司法研修所教官時代には、60期から63期まで、新試験クラス・旧試験クラス併せて約500人の修習生を受け持ちました。訟務時代には、東京法務局訟務部付検事として、東京高裁、同管内地裁において民事・行政の法廷に国の代理人として立ちました。検事時代最後の8年程は管理職をしており、企画・研修・広報・監査・検務、

刑事政策などの仕事をしておりました。

京都は、生まれ故郷であるとともに、平成26、27年度と京都地検の総務部長として、犯罪被害者支援や高齢や障害を有する加害者の社会復帰支援に取り組んだ思い出深い土地でもあります。そのとき、児童・障害者・高齢者を、犯罪の被害者にも加害者にもしないために、司法と福祉・医療の連携の必要性を感じ、その後、社会福祉士と精神保健福祉士の国家資格を取り、ソーシャルワーカーとしても活動しています。

京都さつき法律事務所の一員として、経験や資格も生かしながら、ほわっと暖かハートで、すーっとクールな感じで、仲間と仲良くやっていこうと思っております。

これからも、日々研鑽に努め、目の前の一つ一つの案件に対し、丁寧な心を込めて取り組んで参りたいと存じますので、ご指導、ご鞭撻を賜りたく、よろしく願いいたします。

個別事案で直接支援がしたいという思いが強くなってきました。また、高齢の両親のことも心配だったので、そろそろ故郷の京都に戻ろうと考え、早期退官を申請しました。

山下：検察官として27年余りも立派なキャリアを積んできているので、他の法律事務所に客員弁護士として入って、悠々

自適な生活もできたんじゃないかなと思うんですが、なぜうちの事務所に入りたと思ったんですか？(笑)

中村：悠々自適な生活にも憧れますが(笑)、それよりも、弁護士として、生まれ故郷の京都の地に根を下ろし、社会福祉士や精神保健福祉士の資格も生かしながら、社会貢献したい。

お礼

弁護士 山下信子

前号(さつきニュースvol.35)でご紹介させていただいた、京都弁護士会主催(京都府共催)の「第50回憲法と人権を考える集い」は、去る12月12日に無事盛会にて終わることができました。さつきニュースを見て参加すると決めていたという方が何人もおられて

感謝しております。当日の生中継の様子は後日、京都弁護士会のホームページからご視聴できる予定です。平野啓一郎さんの講演やインタビューを見逃した方はぜひご覧下さい(私の閉会挨拶も、マイクを忘れて舞台に出てきたところ以外は好評でした)。

司法試験受験時代に思っていたように、個別の事件に一生懸命丁寧に取り組みたいと考えました。山下弁護士なら、弁護士として一人前になれるようにビシバシ鍛えてくださるか(笑)

山下: 検察官の間も訟務検事として民事裁判の国の代理人も務めておられるので、私の方が教えを乞いたいです。ビシバシ指導するのがご希望なら、本條弁護士がやってくれるかと。

本條: いやいやいや(笑)

以前、山下弁護士に尋ねたこともあるのですが、好きな芸能人は誰でしょうか?

中村: 吉永小百合さんです。あんな風に、芯が凜としていて、いつまでも可憐に年が重ねられると素敵です。

本條: ちなみに、山下弁護士は今ほなたが好きですか?

山下: ディーン・フジオカのマイブームが過ぎて、今は「きのう何食べた?」というドラマに出ているときの西島秀俊が好きです。中堅弁護士なのに大きな事件の依頼が来ても断り、毎日きっちり6時に事務所を出て、内野聖陽演じるパートナーのために晩ご飯を作る姿が素敵

です。こんな夫が欲しいと思います。

本條: 何かご趣味はありますか?

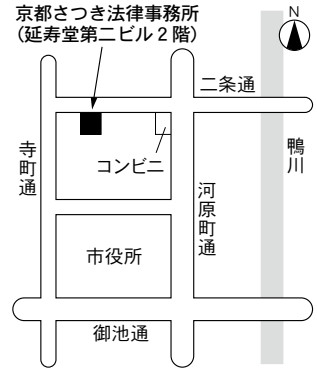
中村: 下手ですが、スポーツならテニスと水泳、他には人を招いて料理することです。クリスマスや夏休みに、後輩検事や検察事務官や修習生を招いていました。

本條: 真面目な質問に戻りますが、今後やってみたいと思うことや目標は何かありますかでしょうか?

中村: 遠い目標ですが、社会福祉士や精神保健福祉士としての活動も京都に根を下ろしてやっていきたいので、ソーシャルワーカーである弁護士として、児童虐待の被害児の支援、加害者であるDV被害者の支援、摂食障害者の支援、精神障害者・知的障害者の支援、高齢の方の総合的な支援などを、個別事案支援としてだけでなく、他の専門職とも連携できる仕組み作り、地域作り、街作りをしていきたいです。

法曹であることに誇りを持ちながら、他分野も真剣に学び、他職種を尊敬し、信頼して、ふ

事務所へのアクセス



河原町通二条の交差点を西へ入り、少し行った南側、漢方薬局「延寿堂ビル」の2階です。

交通機関は、地下鉄東西線又は市バス「市役所前」から歩いて5分弱、京阪三条駅から歩いて10分程度。

お車でお越しの際は、事務所専用の駐車場は設けておりませんので、付近の駐車場をご利用ください。

編集後記

さつきニュース第36号、いかがでしたでしょうか。第30号の山下と本條の対談が好評でしたので、第2弾として、山下・本條・中村の巨頭会談をお送りいたしました。中村の人柄を感じていただけたと思います。ご感想など頂戴できると、所員一同喜びます。改めまして、当事務所をどうぞよろしくお願

いたします。
(事務局 菅)



わつつながる関係作りを目指しています。

本條: 最後に読者の皆さまに一言お願いします。

中村: まずは、京都さつき法律事務所にご相談がある事件に迅速かつ正確に対応できるように、たくさん勉強したいと思います。新しいことを学ぶのが好きなので、山下弁護士と本條弁護士にビシバシ鍛えてもらい、早くお役に立てるように精進いたします。